

Title	單葉函數二就テ
Author(s)	尾崎, 繁雄
Citation	全国紙上数学談話会. 19 p. a-p. none
Issue Date	1934-11-10
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73894
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

57. 單葉函数 = 京大

久

尾崎 繁雄 (東京文理大)

D を有限な単一範囲, γ を D の境界を表はす正則曲線とする. 今 z が γ 上を一周する場合, $\frac{1}{z}$ の値は曲線 γ に沿って 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. したがって D の範囲を γ によって 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. この場合 γ の範囲 D は必ずしも γ 上の限りの値に $2\pi i$ だけ増加する. D を反転凸範囲と呼ぶことは出来る. γ を 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する.

定理 A. $w = f(z)$ が反転凸範囲 D 内では有理型, 且 γ 上では

$$\Re [e^{i\alpha} z^2 f'(z)] > 0 \quad (\alpha: \text{一定実数}) \quad (1)$$

ならば $f(z)$ は D 内では單葉である. (尚 γ 上の原像は当然 D 内では 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する.)

証明. $\text{Amp.} \frac{dw}{z^2} = \pi + \text{amp.} \frac{1}{z^2}$ となることは (1) より

$$\frac{\pi}{2} < \alpha + \text{amp.} dw - \pi - \text{amp.} \frac{1}{z^2} \leq \frac{\pi}{2} \quad (2)$$

これは D の反転凸範囲であるから, D は 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. D の境界 γ は十分接近して曲線 γ 上に 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. D が反転凸範囲であることは正則曲線 γ 上の 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. z が γ 上を正方向に一周する $\frac{1}{z}$ の値は曲線 γ 上の 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する.

$$\beta \leq \text{amp.} \frac{1}{z^2} \leq \beta + 2\pi \quad (3)$$

結局 (2), (3) より

$$\beta - \alpha + \frac{\pi}{2} < \text{amp.} dw \leq \beta - \alpha + \frac{3\pi}{2} \quad (4)$$

$f(z)$ は γ 上の値 γ の像 γ' 上の 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. (4) は γ' 上の 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. $\text{amp.} dw$ の振幅が 3π より小である. 故に γ' 上の 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する. 定理 (正則曲線 γ の境界とする単一範囲 D に対して, γ 上の 2π 回 $2\pi i$ だけ増加する $\text{amp.} dw$ の振幅が 3π より小ならば D は單葉である) (拙論大塚数学会誌 1951 年 18 頁参照) を用いて, D が單葉であることがわかる. 従って

$f(z)$ は D' 上即ち D 内を"単葉"アル。

尚且この定理が掛谷先生ノ流儀ニテラツテ幾分狭張アルヲ知ルアルカ"記述が繁雑"ナルカラ省略スル(前記拙論参照)

コノ定理ハ明カニ能代氏ノソレト対ニナルモノアルカ"能代氏ノ定理ハ次ノ様ニ述ベタカ"幾分一般化アル。

定理 A'. $w = \varphi(z)$ カ"凸範圍 D 内を"有理型"アル且ココヲ"
 $\Re[e^{i\alpha}\varphi'(z)] > 0$ (α : 一定実数)

ナラバ" $\varphi(z)$ は D 内を"正則且單葉"アル。

証明. $\Re[e^{i\alpha}\varphi'(z)] > 0$ ナルコトヨリ $\varphi(z)$ 内ニ於ケル正則性カ"表ハレル。($\varphi(z)$ カ D 内ニ極限 z_0 ヲモツトスレバ, z_0 ノ近傍ノ z ハ φ' ニ面シテ ∞ ノ近傍ニ至ル $|\varphi'(z)| > M$ — ココニ M ハ充分大ナル"常数" — ヲウツックス。從ツテ例ヘバ" $\Re[e^{i\alpha}\varphi'(z)] < 0$ ナル様ニ z カ z_0 ノ近傍ニ存在スルコト事ニテリ假定ト矛盾スル)

從ツテ $\varphi(z)$ 亦 D 内を"正則"トシ、能代氏ノ定理ヲ応用シテ其ノ結果ヲ得ル。

系. $f(z) = \frac{1}{z} + a_0 + a_1 z + \dots$
 カ" $|z| < R$ 内を"有理型且ココヲ"

$$\Re[e^{i\alpha} \frac{f'(z)}{f(z)^2}] > 0 \quad (\alpha: \text{一定実数})$$

ナラバ" $f(z)$ は $|z| < R$ 内を"單葉"アル。

証明. 定理 A' = 於テ $\varphi(z) = \frac{1}{f(z)}$ トツケハ"容易ニ至レル。

已ニ知ラレタル結果ト合セテ"ノ様ニ述ベルコトカ"アル。

定理 B. $f(z) = \frac{1}{z} + a_0 + a_1 z + \dots$
 カ" $|z| < R$ 内ニ於ケル有理型函数トスル。

系. $\varphi(z) = z + a_2 z^2 + \dots$
 カ" $|z| < R$ 内を"有理型且ココヲ"

$$\Re[e^{i\alpha} \frac{z^2 \varphi'(z)}{\varphi(z)^2}] > 0 \quad (\alpha: \text{一定実数})$$

ナラバ" $\varphi(z)$ は $|z| < R$ 内を"單葉"アル。

証明. 定理 A = 於テ $f(z) = \frac{1}{\varphi(z)}$ トツケハ"容易ニ至レル。

定理 B'. $\varphi(z) = z + a_2 z^2 + \dots$
 カ" $|z| < R$ 内ニ於ケル有理型函数トスル。

α 一定実数トスルトキ $|z| < R$ 十レ凡テ z
 = 対シテ n 次ノ三條件ノ何レカ一ツカ"満
 足サレハ" $f(z)$ ハ $|z| < R$ テ"單葉"ナル。

$$(i) \operatorname{Re}[e^{i\alpha} z^2 f'(z)] > 0$$

$$(ii) \operatorname{Re}[e^{i\alpha} \frac{z f'(z)}{f(z)}] > 0$$

$$(iii) \operatorname{Re}[e^{i\alpha} \frac{f'(z)}{f(z)^2}] > 0$$

α 一定実数トスルトキ $|z| < R$ 十レ凡テ
 = 対シテ n 次ノ三條件ノ何レカ一ツカ"満
 足サレハ" $\phi(z)$ ハ $|z| < R$ テ"單葉"ナル。

$$(i) \operatorname{Re}[e^{i\alpha} \phi'(z)] > 0$$

$$(ii) \operatorname{Re}[e^{i\alpha} \frac{z \phi'(z)}{\phi(z)}] > 0$$

$$(iii) \operatorname{Re}[e^{i\alpha} \frac{z^2 \phi'(z)}{\phi(z)^2}] > 0$$

特ニ (i), (ii) ノ特異合ニハ $\phi(z)$ ハ $|z| < R$
 正則トナル

[注意] 定理 A 及ニ "A'" ガ夫々已ニ知ラレタル次ノ結果ノ拡張ヲ
 コトハ明テナル。

$$f(z) = \frac{1}{z} + a_0 + a_1 z + \dots$$

カ" $1 \geq |a_1|R^2 + 2|a_2|R^3 + \dots + n|a_n|R^n + \dots$
 7 満足スレハ" $f(z)$ ハ $0 < |z| < R$
 テ"正則且單葉"ナル。

$$\phi(z) = z + b_2 z^2 + \dots + b_n z^n + \dots$$

カ" $1 \geq 2|b_2|R + \dots + n|b_n|R^{n-1} + \dots$
 7 満足スレハ" $\phi(z)$ ハ $|z| < R$ テ"正則
 單葉(星型)ナル。

最後ニ前号ニ於ケル能代氏ノ定理 B' 及ニ "C'" ハ何レモ上記
 定理 A 及 系ニ含マレルコトヲ附記シマス。

5.3 函数ノ多葉性ニ就テ II / 補遺

コ"ク大ザツハ"ナ計算ヲスルハ"次ノ結果ヲ得ル

$$\text{定理 } g(z) = z^k + b_{k+1} z^{k+1} + \dots + b_n z^n + \dots$$

7 $|z| < 1$ = 於ケル正則長葉函数トスルハ"

$$|b_n| < \left(\frac{en}{k}\right)^{2k}$$

$$\frac{1}{2} \text{ 証明。 } G(z) = \sqrt[k]{g(z)} = z + c_2 z^2 + \dots + c_n z^n + \dots, \quad |z| < 1$$

= 於ケル正則單葉函数トナル。從テ正ニ、定理ヨリ

$$\frac{|z|}{(1+|z|)^2} \leq |G(z)| \leq \frac{|z|}{(1-|z|)^2}, \quad \left\{ \frac{|z|}{(1+|z|)^2} \right\}^k \leq |g(z)| \leq \left\{ \frac{|z|}{(1-|z|)^2} \right\}^k$$

從テニ、係數

$$|b_n| \leq \frac{1}{r^k} = \frac{1}{\left(1 + \frac{2k}{n+k}\right)^{2k} \left(\frac{n+k}{2k}\right)^{2k}} < \left(\frac{en}{k}\right)^{2k}$$